



「未来の種は、現在、その一粒一粒が蒔かれている。」

校長 妹尾 雅巳

「未来の種は、現在、その一粒一粒が蒔かれている。」

わたしたちの先人が、どんなに努力して現在を築くための種を蒔いたか…。

(おけさ柿物語 羽茂町誌第一巻) 羽茂町長 渡辺 博 様の発刊のことばの冒頭の一部です。

旧小木中学校、旧羽茂中学校の統合前から、統合後も、この南佐渡中学校区に多くの先人たちが汗をかき、力を合わせ、脈々と受け継がれているうえに、現在の南佐渡中学校があります。

そして、次年度の赤泊中学校との統合では、新たな未来の種が蒔かれることとなります。

そこで、当校の変遷を下図のように整理してみました。南佐渡中学校としては開校11年目に入ったばかりですが、変遷図から考察すると、多くの卒業生、学校関係者、地域の方々が、各々の学校で学び合いやかかわりなど通じて現在へと受け継がれています。

例えば、『宿根木観光ボランティア』や句集『もやい』と『羽茂万葉』の伝統が引き継がれた『南佐渡万葉』は、まさに先人たちが蒔いた種が現在を築いている証です。

さて、赤泊中学校との統合に向けて、中学校では生徒同士の交流授業を年間20回程度行ったり、部活動では合同チームとして参加したりと、統合後に子どもたちがスムーズに移行できるように進めています。PTAの規約や役員についても、この夏休みには話し合いが行われます。また我々教職員は、より生徒たちが違和感なくうち解け合えるように、両校で話し合いを重ねています。



